

いがらし ひろし
仙台駅 五十嵐 浩 駅長



▲1979(昭和54)年国鉄入社。仙台支社総務部総務課長、郡山駅長等を経て2019(令和元)年6月から仙台駅長。
※取材当時

インタビュアー・仙台新幹線運輸区

徳永 翔 亀井 嘉則 俵 翔太郎

■ 開業日

1987年12月15日

■ 新幹線開業日

1982年6月23日(大宮～盛岡間)

■ 所属路線

東北新幹線、秋田新幹線、
東北本線、仙石線、仙山線、常磐線、
仙石東北ライン

新幹線開業による大幅な時間短縮 「心」の距離も近くなり、“世の中の動きが変わる”と感じた

東北新幹線は大宮～盛岡間が開業してから40周年を迎えました。

ー 1982年に東北新幹線が開業した当時は、どのような想いを抱かれましたか。

東北新幹線が開業したのは、私が国鉄の郡山貨物ターミナル駅(物資輸送の拠点)に勤めていた頃でした。それまでは、在来線の特急列車を使っても、郡山から福島までが約40分もかかっていましたが、時速210km/hで走る東北新幹線が開通したことで、なんと約15分にまで短縮されました。その速さに非常に驚いたことを今でも鮮明に覚えています。また、東京方面へ日帰りもできるようになり、「時間」の面でも「心」の面でもすごく近くなったような気がしました。この大きな変化により、まさに“世の中の動きが変わる”と率直に感じました。

ー 東北新幹線と仙台駅がこれまで担ってきた役割はどのようなものでしょうか。
また、時代とともにどのように変化してきたのでしょうか。

仙台は東北の玄関口として、経済や文化の面などで重要な役割を担ってきました。また宮城県はもちろん、東北地方の観光の拠点としての役割も強めていきました。そして東北新幹線はその玄関口となる仙台駅を通じ、それまで以上に首都圏エリアと東北エリアとの交流の結節点としての役割を担ってきました。

私はこれまでに、東北地方のいくつかの主要駅で勤務した経験がありますが、これほどまでに一日を通してお客さまの流れが途切れず、活気のある駅は初めてでした。特にエキナカや駅ビル内のテナントの多さや活気は、首都圏エリアを含めたJR東日本管内でもトップクラスとも言えます。これまで仙台駅と仙台的街が共に進化し、大きく発展してきた様子を肌で感じ、駅と地域との関係性の大きさを感じました。特に、昔の仙台駅東口の様子をご存知の方ならばご共感いただけるかと思いますが、過去の姿からは想像がつかないほどの大きな発展を遂げており、これに東北新幹線が貢献した部分は計り知れないと思います。また駅の東西を結ぶ自由通路により、駅を中心に東西に人の流れができたのは仙台の大きな変化であったと感じます。



▲現在の仙台駅舎(西口より)



▲仙台駅五代目駅舎（1976年）
※「仙台駅 120年史」より

ー 開業以降、新幹線は延伸や新型車両の投入など、さまざまな発展を遂げてきました。駅長の想い描く将来の新幹線像はどのようなものでしょうか。

新幹線による荷物輸送サービス「はこビュン」や新幹線オフィス車両等、かつての常識では考えられないような取組みも始まっています。2030年度には北海道新幹線の札幌延伸も予定されていますが、それにより仙台駅の様子、役割も大きく変わってくると予想しています。時代の変化に合わせて東北新幹線も進化していきます。

これからも地域の皆さまとのつながりを大切に ともに仙台を盛り上げていきたい

ー 東北新幹線がお客さまや地域の皆さまに親しまれていると感じた出来事を、駅長ご自身のエピソードをお聞かせください。

地域の皆さまがイベントを企画された際に、「仙台駅と一緒にやりたい」、また「仙台駅でやりたい」というお声を頂けていることが、非常に嬉しく感じていることです。地域とのつながりを強く感じる瞬間であり、そのような皆さまからの支えにより、仙台駅の活気に結びついていると思います。このコロナ禍ではさまざまなイベントに制限がありましたが、地域の皆さまとの関係性を途切れさせることなく、少しでも早くまた色々なイベントが実施できたら良いなと感じております。

ー 仙台駅長に就任されてから数々のイベントや取組みにより地域と関わってきた中で、印象に残っていることは何でしょうか。

在来線を含めて仙台駅発着の団体臨時列車が多数運転されてきましたが、非常に多くのお客さまにお集まりいただき、楽しんでいただけたことが印象に残っています。ホーム等でサインを求められることがたまにあり、少し気恥ずかしいですが嬉しいです。イベントではありませんが、仙台駅では1日に2回、新幹線同士の連結作業が行われています。お子さま連れのお客さまが時々見学に来てくれています。このようなお子さまが楽しそうにしている姿を見ると嬉しくなりますし、将来も東北新幹線をご利用していただきたいと強く思います。

多くのご支援があつての復旧に感謝 引き続き「安全・安定輸送」に取り組んでいく

ー 東北新幹線は2011年、2021年、2022年とそれぞれ発生した地震によりしばらくの間不通となりました。数日後に運転再開後の一番列車が運行した際、どのようなお気持ちでしたか。

これらの地震では東北新幹線の設備に甚大なる被害が出ました。率直に、この規模の災害が続くことは非常に悲しいことです。ただ、過去の教訓が少しずつ生かされ、JR各社や各グループ会社、関連企業、何より地域の皆さまからのご協力により、比較的に早い日数で復旧ができたことは私自身も感銘を受けていますし、感謝の気持ちでいっぱいです。復旧に向けた意識や技術力の高さに驚くと同時に、東北新幹線が社会から必要とされていることを改めて感じる事ができ、社員の精神的な成長にも繋がったと感じます。一方で2022年の地震では、新幹線が脱線するほどの被害が発生しましたので、安全で安定した輸送をお客さまに提供していかなければならないと改めて身が引き締まる思いです。



ー 現在「新幹線YEAR2022」や「鉄道150周年」としてのさまざまな企画を実施中ですが、お客さまにお知らせしたいイベントやキャンペーンについて教えてください。



6月25日に、東北新幹線開業40周年を記念し、団体専用臨時列車「なつかしのあおば号」が仙台～上野間で走りました。既に引退した200系と同カラーの新幹線車両（E2系）で運転となりました。定期列車でも、200系カラー新幹線は運転を行いますので機会があればご乗車いただければと思います。また、利府町にある新幹線の車両基地（新幹線総合車両センター）へ回送列車でご招待するツアーも企画しています。詳細は決まり次第発表いたしますのでご期待ください。

新幹線以外にも、鉄道開業150周年のイベントも企画中です。多くの方に仙台駅に遊びに来ていただきたいです。お待ちしております。

ー 五十嵐駅長、ありがとうございました。